

「キリストのうちのこそ、神の満ち満ちたご性質が」 コロサイ 2：8－10

I 「あのむなしい、だましごとの哲学（コロサイにあった異端的思想）によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません」：8。私達も、真の真理である神の御言葉、66巻の聖書全体を読み、正しく教えられ続けたい。間違った教えに惑わされないように祈りたい。

II 「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

1. 全知。キリストは、すべてを知っておられる偉大な神。主は、私達の悩み、問題、経済状況すべてを知り、支えて下さる。主は、私達の罪、欠点をすべて知っていながら私達を愛し、十字架で身代わりに死んで下さった。主はペテロに言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います」マタイ26：34。主は、人の弱さをすべてご存知。その上で、ペテロを、私達を愛して下さる。
2. 全能。キリストは、全能の神。キリストは、天と地を、無から有を創造された偉大な神。天地創造は、父、子、聖霊なる三位一体の神の御業。「万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの…すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです」コロサイ1：16。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます」ヘブル1：3
3. 義。キリストは義なる神。罪のない聖なる義の神。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして、自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」Iペテロ2：22－24。
4. 愛。キリストは、愛に満ちた神。キリストの私たちへの愛は＝「愛は、寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることがありません」Iコリント13：4－8。主は、私達が自分で自覚してる以上に、私達の事を心から愛しておられる。
5. 「キリストはすべての支配と権威のかしらです」コロサイ2：10。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています」マタイ28：18。主は、すべての造り主、すべてを支配しておられるかしら、神。主は、歴史の主。主が、すべての上に君臨しておられる。「王権は主のもの。主は、国々を統べ治めておられる」詩篇22：28。今も歴史を支配しておられ、やがては、それを終わらせられる。主の再臨がある。この事実を見失ってはならない。主は、全世界も私達の歩みも支配しておられる。すべての出来事は偶然に起こるのではない。そこには、主のご計画がある（それは深くて、小さな私達には、すぐには理解できない）。

い事もある)。初めから終わりまで見通しておられる主は、すべき時も終わらせる時も、わきまえておられる。摂理とは、創造主が、被造物を支え、この世に起こるあらゆる事柄の中に働き、すべての物事をその定められた目的へ向ける神の働き。すべての支配と権威のかしらである主に信頼して歩みたい。

Ⅲ 「そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです」コロサイ 2：10。

1. 私達が、満ち満ちているのは、満ち満ちた神ご自身であるキリストが、私達の心の中に住んでおられるから。主を信じ、主を心に迎える人の中に主はおられる。

「私はキリストとともに十字架につけられました（霊的結合）。もはや私（古い人）が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」ガラテヤ 2：20。

「この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです」

コロサイ 1：27

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事（交わり）をし、彼もわたしとともに食事をする」黙示録 3：20

祈りたい。「キリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができるようになります。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように」

エペソ 3：17－19

2. 「キリストにあって」＝主と霊的に結合し、主にとどまり続ける。「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります」ヨハネ 15：4
 - ① 毎朝、御言葉を読み味わい、祈り、主と交わり、主にとどまる。「私達が滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい」哀歌 3：22，23
 - ② 毎主日の礼拝で、主を賛美し、主の御言葉をいただき、主にとどまる。
 - ③ 第一に主との交わりを大切にすると同時に、主にあって互いの兄弟姉妹との交わりを大切にする。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」マタイ 18：20
 - ④ 主が、どんな時も、共におられる事、心の中におられる事実を、いつも認め意識し、自覚することが出来ますように。それを継続する時、主の臨在が現実、喜ばしく意識されるようになる。